震災後も継続する鍼灸ボランティアの役割

箕口けい子
倉敷芸術科学大学生命科学部健康科学科鍼灸専攻

（2017 年 10 月 1 日　受理）

１．はじめに

東日本大震災が発生してから 6 年がたち、被災地も復興へ向かっている。東日本大震災では、多くの方々がボランティアとして被災地を訪れ被災者のニーズに沿った活動を行い、それについて様々な報告がなされている。同じように鍼灸師も被災地に入り活動を行った。鍼灸師として何ができたか、災害医療の中での鍼灸師の役割、他職種との連携などについて書かれた報告は、今後の災害において鍼灸の役割について多くの示唆を与えている（例えば、三輪，2012）。だが、復旧・復興が進む現在でも続く鍼灸ボランティア活動についての報告はあまり見当たらない。筆者は昨年と今年の 2 年にわたって、東日本大震災のあった 2011 年から継続して行われている「プロジェクトさとわ」（以下「さとわ」）の鍼灸支援活動に参加する機会を得た。活動に参加して、現在の被災地で鍼灸ボランティア活動がどのような役割を担っているのか疑問を持った。そこで本稿では、まず急性期の鍼灸ボランティアを外観し、次に現在被災地で求められているボランティア活動から被災地が鍼灸ボランティアを必要としているかを探り、さらに、「さとわ」の活動を紹介した後、現在の被災地での鍼灸ボランティア活動の役割について考えてみたい。

２．急性期の鍼灸ボランティア

2011 年に東日本大震災が生じた際、日本の多くの鍼灸師が「自分にも何かできることがあるのではないか」という思いを持ち、ボランティアで被災者のケアを行った。中には自らが被災者でありながら、避難所で同じ被災者のケアにあたった鍼灸師もいた。様々な物資が不足する中、薬を必要としない鍼灸は、鍼とモグサがあれば被災者のケアが可能であり、仮に何もなかった場合でも、いわゆる「つぼ」を使った皮膚刺激で対応することも可能であったと考えられる。多くの鍼灸ボランティアが個人またはチームを作り、発災直後から被災地に入り活動を始め被災者のケアを行った。被災地でケアの対象になったのは被災者だけでなく、避難所・行政・消防等の職員、避難所のボランティアも含まれる。対応した主訴は多岐にわたるが、それらは腰痛、肩こり、不眠、頸肩部痛、便秘等、鍼灸師が普段遭遇することが多い症状であったといえよう。多くの方々のケアをし、大半の鍼灸ボランティア活動は発災後約 1 年以内で終息した。活動終息の理由としては、避難所が閉鎖され被災者の生活が仮設住宅に移り、求められるボランティアに変化が生じたこと、被

災地の復旧・復興が始まり地元の鍼灸師が治療院を再開したこと、ボランティア活動を行う鍼灸師の経済的事情によると考えられている。[1)]

３．現在のボランティア活動から被災地のニーズを探る

ボランティアに必要なものの一つに「相互性」がある。相互性とは、「ボランティアが自発的な活動といいながら、ボランティアを行うためには、そこにボランティアを受け入れるニーズ、あるいはニーズを持った人が必要である。」（内海 2012, p. 11）という考え方である。この考え方を元に、被災地のニーズを調査した。調査対象は、復興庁のウェブサイト「ボランティア活動への参加をお考えの皆様へ」に掲載されているサイトである。このサイトに掲載されているものは、復興庁が把握しているボランティア検索サイトや、個人ボランティアを受け入れている団体のサイトである。方法として、まず紹介されている各団体のウェブサイトを閲覧し、ページの更新もしくは、ブログやツイッター、フェイスブックへの記事の投稿から現在活動中であるかを確認した。次にボランティアの募集の有無を確認する。最後に募集しているボランティアの内容を調査し、最も多いボランティア活動を被災地のニーズとして仮定することとした。

結果として、復興庁のウェブサイト内に掲載されているサイトが 46、その中にある各団体の個別のウェブサイトは 38 であった。そのうち、サイトの更新がなされていて、ボランティアを募集している団体が 27 あり、これらを調査対象とした（表 1）。募集しているボランティア活動にはいくつかの共通項目があったため、項目ごとに分類をすすめた。

最も多かった項目が地域のお祭りの補助や、地域活性を目的としたイベント支援であり、次いで休耕田や私有地の草刈り、公共および被災家屋などの清掃活動、集会所等でのサロン活動、種まきや苗の植付け、収穫といった農業支援となった。上位の項目は地域住民との関わり会いおよび人々が暮らす地域に関するものと、第 1 次産業である農業の支援であった（表 2）。

以上の結果から、現在の被災地のニーズには鍼灸が直接的にかかわれるものはなく、鍼灸ボランティアはあまり必要とされていないことが示唆された。

４．継続して行われている鍼灸ボランティア

筆者が昨年、今年と参加した「さとわ」の鍼灸ボランティアは、2011 年の 5 月から続く活動で今年が 6 年目になる。この活動は、須藤隆昭（釧路市あんずの種院長）が岩手県陸前高田市にて活動を開始したものである。

まず、参加した活動の内容を紹介する。期間として昨年は 5 月から 10 月の 6 か月間、今年は 6 月から 10 月の 5 か月間、ひと月に 1 度、2 ～ 3 日間行われている。筆者は、昨年の 6 月 28・29 日、今年の 9 月 2 ～ 4 日を担当した。場所は陸前高田市のスーパーマイヤ（図 1）の敷地内に駐車した、キャンピングカーを改造した治療スペースである（図

2)。患者の多くはスーパー近隣に居住、就労されている方であるが、中には偶然買い物に来られた方もいた。2年間共に患者の半数以上が再診で、毎回の鍼灸施術を楽しみにされている方、以前施術を受けられた方からの紹介などであった。初めて来られた方には鍼灸治療も初めてという方が多く、鍼灸についての説明をしてから施術を行った。来られた患者すべてのカルテが残されているため、再診のときも以前どのような症状で受診されたのかを知ることができた。

表1　現在ボランティア活動をしている団体とその内容

	ウェブサイトの名前	内　　容
1	ARTS for HOPE	アートによる被災地支援
2	一般社団法人SAVE IWATE　（盛岡市）	内容によって変動　復興商品購入
3	山田町社協復興支え愛センター　（山田町）	デイサロン活動　サロン活動は2017年10月にも行われる記載有。
4	特定非営利活動法人遠野まごころネット（遠野市）	「コミュニティづくり」と「なりわいづくり」のための活動　就労支援、農業支援、イベント運営
5	NPO法人サンガ岩手　（大槌町）	仕事づくり、生きがいづくり、仲間づくりをキーワードに。藍の種まき、畑整備、手芸準備
6	認定NPO法人カタリバ　（大槌町）	被災地の子供たちの学習支援と心のケア
7	一般社団法人三陸ひとつなぎ自然学校（釜石市）	地域のために立ち上がり、挑戦する人が多いまち、釜石の実現を目指し、釜石と沢山の方々をつなぐ活動、イベント活動
8	釜石市社協生活ご安心センター　（釜石市）	引越し手伝い、お茶っこ（サロン活動）、草刈り、整備、イベント支援
9	認定特定非営利活動法人カリタス釜石（釜石市）	釜石でのボランティア活動の状況に合わせ、ご相談・調整のうえ、ご参加の可否を回答、学生・被災地学習ボランティアは受け入れ、イベント手伝い、サロン活動
10	一般社団法人SAVE TAKATA（陸前高田市）	イベント支援、農業支援、IT支援、若者支援
11	特定非営利活動法人パクト　（陸前高田市）	草刈り、田畑の再生、農業支援、漁業支援、高田松原再生のためのお手伝い、古川沼「思い出の品」探し、花壇の整備、思い出の品の整理、市内イベントの補助、引越し手伝い
12	一般社団法人ボランティアステーション in 気仙沼（気仙沼市）	コミュニティ支援、気仙沼の街づくり、イベント支援
13	一般社団法人気仙沼復興協会　（気仙沼市）	海岸・河川の清掃、公共ニーズ清掃、整地作業、イベント活動
14	NPO法人フェローズ・ウィル　（南三陸町）	漁業支援、イベント支援
15	南三陸応縁団（一般社団法人南三陸町観光協会）（南三陸町）	農業支援、漁業支援、イベント支援
16	一般社団法人ピースボートセンターいしのまき（石巻市）	各種養殖（ワカメ、牡蠣、昆布、ホタテ、ホヤ、海苔、その他）の準備、収穫、加工出荷作業
17	おらほの家プロジェクト　（石巻市）	サロン活動、医療支援
18	復興支援ボランティアグループ「マキコでございま～す！」（石巻市）	クリーン活動、草刈り、イベント支援
19	特定非営利活動法人おもいでかえる（仙台市）	写真や思い出の品の持ち主への返還、返却活動、保存活動、清掃活動
20	NPO法人ビーンズふくしま　（福島市）	フリースクールの子供たちの支援、子供の学習支援、子供のレクレーション支援
21	福島移住女性支援ネットワーク　（福島市）	日本語サポーター、日本語サロン、福島に移住した外国人女性へのサポート
22	福島大学災害ボランティアセンター（福島市）	サロン活動、イベント支援、足湯活動（学生の活動）
23	南相馬市災害復旧復興ボランティアセンター（南相馬市社会福祉協議会）　（南相馬市）	災害・原発事故の被害による個人宅の片付け作業 屋内外の清掃、ゴミの分別・搬出、草刈り
24	南相馬市ボランティア活動センター（南相馬市）	がれき撤去･側溝の泥出し･草刈り･庭木の伐採・被災家屋の清掃
25	がんばろう！なみえ復興ボランティアセンター（浪江町社会福祉協議会）　（二本松市）	引越し支援、住環境の困りごと（家屋清掃、自宅敷地内や周辺の美化清掃など）の支援
26	田村市復興応援隊　（田村市）	生活支援をはじめ、地域活動支援や、田村市の魅力発信などの活動
27	相双ボランティア　（いわき市）	引っ越し、掃除、片付け、ゴミだし、修繕、草刈り、樹木伐採、がれき処理、ネズミとり、線量測定、一時帰宅の送迎、相談、情報収集と拡散

※1　2017年9月16日に復興庁のウェブサイトから情報を確認した。

表２　ボランティアの共通項目

	項目	該当数
1	農業支援	8
2	漁業支援	4
3	サロン活動	6
4	コミュニティ支援	6
5	イベント支援	13
6	草刈	7
7	清掃活動	6
8	引越	4
9	就労支援	2
10	子育支援	3
11	医療支援	1
12	障がい者支援	1
13	その他	22

主訴として多く感じたものは、腰痛、肩こり、背部痛であった。昨年来られた方では、具体的に震災後から症状が発現していると言われる方もおられたが、今年は震災後という言葉はあまり聞かれず、現在されている仕事や生活の中で生じている症状が多かったように思う。患者数は、昨年は２日間で34名、今年は、３日間（１日目と３日目は半日）で35名であった。[2] 人数の変動がほぼないことから、陸前高田のこの地域において鍼灸治療を受けてみたいというニーズが一定数あることが推測できる。

「さとわ」では、利用者にアンケートを実施しその結果を報告している。それによると、利用者である地域住民の方は、知人の紹介やチラシで活動を知り、半数以上の方から２診目以上ということから地域住民の認知度が上がってきていることが示唆されているとしている。[3]

図１　活動場所のスーパーマイヤ高田店

図２　鍼灸施術を行うキャンピングカー「さとわ号」

５．鍼灸ボランティアの役割

現在の東北においてニーズがあるボランティアは、被災者の体のケアを目的とするものではなく、人手が必要な仕事が多いことが項目２の調査で分かった。だが、実際に行われている「さとわ」の活動には、一定の患者がいること、その患者の中には複数回利用している方がいることなどを考えると、必ずしもニーズが無いとは言い切れない。よって、今

「さとわ」の活動に来られている患者が鍼灸施術を受ける目的を検討することで鍼灸ボランティアの役割を考えてみる。

鍼灸治療において、もちろん主訴の改善が目的であるが、主訴改善による体調回復によってやる気（モチベーション）が上がることも目的の１つであると筆者は考えている。では、やる気（モチベーション）と体調の間には関連はあるのだろうか。普段、体調がすぐれないとやる気が出ないと感じる人は多いと思われるが、それを報告している研究は学生を対象とした教育分野に多い。石桁・岩崎は広島大学における４日間の特別講義の間のやる気と体調について、調査、集計、分析した結果、学生の体調とやる気の関係には正の相関が50％以上、と負の相関も10％以上があり、関係が深いと述べている（石桁・岩崎 1986, pp. 41-42.）。他にも、長崎・若崎は、看護短大生の卒業研究におけるやる気の要因の低下にも、一時的ではあるが「健康状態不良」があると報告している（長崎・若崎 2001, pp. 90）。また、八巻は訪問介護職員に関して書かれた『訪問介護員の仕事のやりがい感に影響を及ぼす要因』には、仕事をやめたいと思うときの利用の１つとして「体調を崩したとき」があり、リフレッシュ方法は何かという質問のこたえとして「家でゆっくり体をやすめる」が最も多かったとし、「自ら健康管理を行うことができるということも、もちろん仕事を続けるための大切な要素であろう。」としている（八巻 2015, pp. 145）。これらの論考から、体調とやる気には深い関係があり、体調が回復するとやる気が出るというよりは、体調不良だとやる気が出ないという傾向があると推測できる。これを言い換えれば、体調が良ければやる気は低下しないといえるだろう。

以上のことから筆者は「さとわ」の患者の目的の中には、主訴の改善と主訴が改善することによるやる気低下の防止が入っているのではないかと推測する。被災地で暮らす方が、日常生活においてやる気を低下させないことは大切であろう。やる気がなくなれば、家事や仕事に向き合えなくなり、人に会いたくなくなれば家の外へ出なくなる。そうなれば、地域で孤立してしまうことは容易に想像できる。鍼灸施術受診の目的には、施術者との交流や、患者同士の交流はもちろんであるが、表面的ではない部分で「明日からまた頑張ろう」と思う気持ちを持ってもらうことが、継続して行われる鍼灸治療の役割であると筆者は考える。

６．まとめ

以上、現在被災地で求められているボランティア活動の分析から、(1) 地域住民との関わりあいおよび人々が暮らす地域に関するものと、第１次産業である農業の支援であり、鍼灸ボランティアのニーズが低いこと、(2) 継続して行われている鍼灸ボランティア活動である「プロジェクトさとわ」には２診目以上の患者が多く、鍼灸のニーズがあること、(3) 現在の鍼灸ボランティア活動の役割が体調とやる気との関連から、主訴の改善だけでなくそれに付随するやる気の改善にあるのではないかということの３点を指摘することが

できた。

本稿では、体調とやる気の関連性について過去の論文から推測したが、実際どのような関連があるのか確かめることはできなかった。今後の課題としたい。

なお、今回言及した体調とやる気の関連性については、被災地だけでなく多くの現場において興味深い。現在、経済産業省が提唱している「健康経営の推進に向けた取り組み」にもつながるならば、鍼灸の活躍の場が広がると考えられる。若手鍼灸師が増加している現在、彼らの活躍の場が増えるよう、今後も継続してこの関連性について考えていきたい。

注

1）東日本大震災における鍼灸ボランティアの活動については，嶺［2012］，三輪［2012］が詳しい。
2）2016 年は 6 月 28 日，29 日に，畠中美希（釧路　あんずの種）と 2 名で活動し，2017 年は 9 月 2 日から 4 日に，桒田未沙（福山　介護福祉サービス）と 2 名で活動した。
3）「プロジェクトさとわ」の活動については，畠中［2016］が詳しい。

参照文献

嶺　聡一郎
2012 「東日本大震災後 1 年間の鍼灸ボランティア活動のまとめ」『社会鍼灸学研究』7：1-12.
三輪　正敬
2012 「鍼灸マッサージ師による災害支援の方法論」『社会鍼灸学研究』7：13-26.
内海　成治・中村　安秀
2014 『新ボランティア学のすすめ　支援する／されるフィールドで何を学ぶか』京都，昭和堂.
畠中　美希・原田　大祐
2016 「東日本大震災後の鍼灸ボランティアにおけるアンケート調査　平成 26 年度の実態調査に続く」『第 65 回　公益社団法人　全日本鍼灸学会学術大会　北海道大会　抄録集』207.
石桁　正士・岩崎　重剛
1986 『学生の体調とやる気　大学研究ノート第 64 号』広島　広島大学高等教育研究開発センター
長崎　雅子・若崎　淳子
2001 「卒業研究における「やる気」の要因分析－調査と観察による検討－」『島根県立看護短期大学紀要』6：87-95.
八巻　貴穂
2015 「訪問介護員の仕事のやりがい感に影響を及ぼす要因」『人間福祉研究』18：137-146.

［on line］
復興庁
2017 「ボランティア活動への参加をお考えの皆様へ」［cited 2017 Sep 16］Available at: URL: http://www.reconstruction.go.jp/topics/post_74.html

The role of extended volunteer activities in acupuncture and moxibustion since the earthquake disaster

Keiko MINOGUCHI

College of Arts,
Kurashiki University of Science and the Arts,
2640 Nishinoura, Tsurajima-cho, Kurashiki-shi, Okayama 712-8505, Japan

(Received October 1, 2017)

There are several reports on numerous people who engaged in volunteer activities that catered to the needs of the Great East Japan Earthquake victims. However, there are no reports on the volunteer acupuncture and moxibustion activities conducted in the affected areas, which continue even today, although we can now see considerable progress being made in recovery and reconstruction in those sites. The author of this paper had the opportunity to participate in acupuncture and moxibustion support activities in the ongoing "Project Satowa" in Rikuzen-takata city. Although, by and large, acupuncture and moxibustion is not one of the most highly demanded areas of volunteering among those still active in the affected areas, there are consistent users who continue to receive acupuncture and moxibustion services provided by "Project Satowa" today. These users are assumed to be seeking improvement of their chief complaint symptoms and sustained motivation. Thus, the role of continued acupuncture and moxibustion activities in these affected areas may be considered a necessary volunteer activity following a natural disaster in the future.